

伊豆アドベンチャーレース講習会

村越 真

ADRとは？

アドベンチャーレース（以下ADRと略）というアウトドア競技をご存知だろうか。シーカヤック（カヌー）やマウンテンバイク等を駆って、大自然の中に設定されたチェックポイントを通り、ゴールを目指すアウトドアレースである。元祖と言えるレイドゴロワーズでは競技時間は10日を越える。そんな長期のレースは世界的にも少ないが、1日で2種目とか2日間で数種目といった短縮版のレースが最近では日本でも各地で行われるようになった。

ADRのもうひとつのポイントはチーム競技だという点、そして多くの場合女性がメンバーに入ることを義務付けている点である。また、チームの中には、当然走るのは抜群だが、MTBは怖くてスピードが出せないとか、懸垂下降でびびってネックになるといった得手不得手がある。それをいかにカバーして、チーム全体のパフォーマンスを上げるか、そこがまたADRの面白さである。

移動手段がなんであれ、ADRにはナビゲーション技術が不可欠だ。海外でのトップチームも、多くはオリエンティア出身のメンバーをチームに入れている。最近では雑誌「ターザン」がADRに挑戦すべく、チームを結成した。そこにもオリエンタリングの元全日本チャンピオンである杉山隆司氏（今号の巻頭言も執筆）が参加している。また、多摩OLの田中正人が、ADRの国内の第一人者として活躍している種目の限定された小海トレイルフェスタのようなレースではオリエンティアが上位を独占といった場面も見られる。

「ベンチャー企業」ADR

オリエンタリングを、老舗だがマーケットの動向についていわず、売り上げが伸び悩んでいる大企業とすれば、ADRは小さいが勢いのあるベンチャー企業である。この春に山と溪谷社から新しい雑誌も発行された。また、レースには多くのスポンサーも着く（コンパスだけがメインの用具というオリエンタリングと違って、ADRは、自転車やらカヌーやら、とにかく資金がかかるのだ。ということは、メーカーのスポンサーが付きやすいということでもある）。

参加者にも当然、勢いがある。今回、僕が参加したのは、ADRといってもレースではなくトレーニングキャンプ。いわば練

習会である。3万円という参加費にもかかわらず60人以上が参加した昨年と比較すると少ないが、それでも、その値段にも関わらず23人の参加があった。

朝8時に開始して、夕方からの講義を入れると13時間ぶっ通しの講習である。講師もつらいが、参加者もかなりタフだ。もっともそれも、昼夜ノンストップで競技するADRに必要な資質とも言える。

充実の講師陣

今回のトレーニングキャンプの実技講習は、MTB、ナビゲーション、シーカヤック、そして懸垂下降・クライミングである。それぞれの分野の一流の講師がやってくるのも、この講習会の魅力である。クライミングの東（ひがし）さんは国内でも数少ない国際ルートセッターである。20年以上クライミングをやっていて、生きているのが不思議だと思ふほどの数々のアクシデントに出会っている。MTBの館さんは、トレトレ（トレイル・レーシング）バイクというMTB版ラインOLの世界では知らぬ人のいないMTBレーサーである。アメリカのトレーナー資格も持っていて、今回急性の腰痛に悩まされた僕はテーピング等お世話になった。つい先日ヨットでの無寄航世界一周の冒険から帰ってきた白石康次郎さんは雑用係という贅沢さである。

講習は、6月8日の土曜日に始まり、午前中にMTB、その後弁当を食べる30分ほどの休憩のあとに、ナビゲーションのセッションが行われた。18時



▲ミニレースに臨む参加者。いでたちはかなりかっこいい！

からは松崎町の生活改善センターに集合して、室内講習が行われた。

翌9日の講習はシーカヤックと懸垂下降・クライミング。懸垂下降をするのは、採石による洞窟の奥にある、海岸に面した30mほどの岩壁である。最後はシーカヤックのミニレースで締めくくり。

懸垂下降とクライミングの講習を無事終えて、シーカヤックによるミニレースが始まるころ、僕と宮内はフェリーの時刻の関係で会場を後にした。

「浮気」の勧め

本番の伊豆アドベンチャーレースは、7月12、3日にかけて行われる。また、各地で様々な形態のレースが行われている。時には「異種格闘技」への挑戦も、楽しいのではないだろうか。



▲シーカヤックの講習風景